

「山辺町家庭教育充実事業～子育て講演会」

平成27年7月4日(土)

演題：「いろんな“心”が見えますか？…親と子の幸せを祈る助産師からのメッセージ…」

講師：後藤敬子氏（酒田市立八幡病院勤務）

● “命” は引き継ぐもの

大好きな94歳の曾祖母の死を目の前で経験した4歳の子ども。死ぬ間際まで交わした言葉や態度には、優しさと思いやりの心があった。この思いやりの気持ちや、やがて人間は年老いてお別れしていくことを曾祖母は命がけで教えてくれた。死んだ命は大切な人の心の中で生き続けるもの。私たち自身も誰かに支えてもらい命を守られてきた。命を守ってくれた人への感謝の気持ちを忘れてはいけない。命を引き継ぐということは素晴らしいことである。

● 親の原点を忘れないで…

初めて親になった時どんな親になろうとしましたか？子どもへの期待が大きくなりすぎてはいませんか？躰はいいけど親の押し付けはやめましょう。子どもはおとうさん、おかあさんが大好き！子どもは何かあっても親を許す。たとえ虐待を受けた子どもでさえ、大好きな親にすがる。そんな子どもの心を忘れないでほしい。頑張りすぎると自分自身の心が見えなくなる。そのため親は子どもに甘え、イライラをぶつけ、怒鳴りつけ子どもの心を傷つけてしまう。傷つけた心は抱きしめて傷を治す、心の絆創膏が必要。この時、しっかり絆創膏を張っておかないと、思春期に取り返しのつかないことになってしまう。親は子どもにとってかけがえの無い存在。その子どもの夢を支え、かなえさせることも親の役目である。

● 子育ては一人ではしない…

子育ては一人で頑張っても限界がある。夫、両親…誰かに甘えることが大事。特に夫の協力は大きいもの。また、一人で頑張っている人、苦しんでいる人を一人にはしないで、周囲の人が助ける事が大事。親として一生懸命生きていること、命を守っていることは素晴らしい。肩の力を抜いて子育てをしよう。親からされた嬉しいことを自分の子どもにしてあげる。このことがいずれ親孝行につながる。「命」という漢字は、大きな屋根の下、一緒に話をして手をかけるという意味が込められている。

● 命の誕生

0.7mmの受精卵。これが命の始まりである。その受精卵は母の子宮の中で10ヶ月間学習をして「生まれようとする力」「生もうとする力」が一つになって誕生してくる。

4週目 … 母親の体の異変（つわり等）は、母親になることを知らせている。

8週目 … 心臓の音が聞こえる。病院でその音を聞いた時、母親の誰もが感動する。

4ヶ月目… 脳ができる。

5ヶ月目… 羊水を飲むことができる。この時期にすでに食べることは生きる力になることを学習している。食べるのが楽しいことになるようにしてほしい。

6ヶ月目… 笑う練習をする。笑うと皆に愛されるから。それができるようになると瞬きの練習をする。笑う、泣くということはその後、気持ちを相手に伝える行動につながる。

- 7ヶ月目… 心ができる。母の心が伝わる。母親が笑顔で幸せになれるように夫は努めることが大事。
- 8ヶ月目… 鼻の穴があく。呼吸の練習をする。
- 9ヶ月目… 体を小さく丸めて母親を楽にさせる。膀胱を圧迫するので、この時期夜トイレに起きることがあるが、これは体内時計をお母さん時計に変えている。出産後夜中に子どもが泣くとそれに気づき、起きられるように…。
- 10ヶ月目… 出産。陣痛は母親を何にも耐えることができる強さを与える。出産時は母親の体に合わせ生まれてくる。へその緒はしあわせになってほしいという願いが込められている。

●笑顔は子どもの心の栄養剤

別れは突然に来る。その時子どもの心にいる親としての自分はどんな人がいいか？子どもの目には微笑んでいる親が映っている。また、親の目にも子どもの笑顔が映っている。子どもはできなかったことができるようになったことを親に褒めてほしいと思っている。その親の笑顔があるから、子どもは頑張ることができる。ニコッと微笑んで頷くだけで子どもたちは心の栄養にして元気になる。今しかないこの時期、手、声、目をかけて子育てをしてほしい。話したいことは、手をにぎり、目を見てしっかり話してほしい。そして、親に愛されている。我が家の大事な子だという思いを子どもの心に育てていくために「㊦いしているよ」の「あ」。「㊦わてないのよ」の「あ」。「㊦せらないよ」の「あ」。「㊦きらめないよ」の「あ」。「㊦んしんしていいんだよ」の「あ」。この五つの「あ」を忘れないでほしい。

沢山の事例を交えた心温まる先生のお話は、初めて親になった時の感動や原点を思い出させてくれ、私たち自身が忘れかけていた気持ちに気付かされました。私たち親が子どもの心に栄養を与えられるように、子育ては決して一人では悩まず、お互いに助け合い、先生のお話にあった五つの「あ」を胸に、今回お聴きしたことを明日からの子育てに生かしてほしいと思います。講演会后、連絡帳にて感想を頂きましたので、ご紹介致します。

いつもお世話様です。先日はとても素晴らしい講演をありがとうございます。昨年もそうでしたが、涙・涙でハンカチがズタズタでした。いつも仕事仕事で仕事のせいばかりにして、子供が「ママ見て!! ママ見て!!」「こっち見て!!」って呼んでいるのに「...うん。...うん。」とてきとうな返事ばかりしている自分を思い出しながら聞いておりました。5才にしか出来ないこと、5才になり初めて出来るようになることなど沢山あると思いますが、私はいくつ見てあげているのか...と反省しなければと考えさせられました。幸い、共働きでフルで仕事をしていても、私には支えてくれる家族や両親もおり育児に協力してくれます。それが恵まれていて幸せなことと改めて感じました。子供はもちろん、夫、両親、周りの方々の心を見ながら行動しようと思いました。本当にありがとうございました。(Iさん)